



先生... 先生... 先生...
 先生... 先生... 先生...
 先生... 先生... 先生...

大分... 大分... 大分...
 大分... 大分... 大分...
 大分... 大分... 大分...

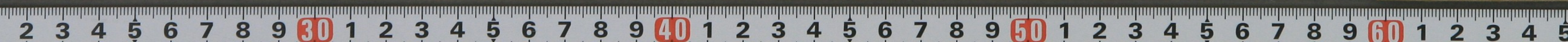
山石川... 山石川... 山石川...
 山石川... 山石川... 山石川...
 山石川... 山石川... 山石川...



尚久雄 振

九月廿二日
 九月廿二日
 九月廿二日

坪内用箋



大分程日らしくなると参りました。
先生は、活元氣氣の素直な人だと思ひます。
突然で出せぬが、熱心な人だといふ
私の戯曲を早稲田文芸に出して戴く事には
なご存りませうか。一向に身日が半年以上北
たつので、うやあまをせんのです。ので
先生から来る久雄君へ早やく出せやう
に言ひこん下さいませうか。お願ひします
尚早利の先生に、こんなお話を致し
す可きせぬが、

永見本店

右の如くお話ししますが、とろしくお願
ひします。

九月十日
小見徳彦

坪内先生

